

No.116

# 公民館だより

平成14年10月

宮津市字由良  
由良の里センター内  
由良地区公民館

## 「野球」

由良地区公民館長 飯澤登志朗

夏の高校野球も明德義塾高校(高知代表)の初優勝で閉幕しました。全国予選参加校四千余校の頂点に立ちましたが、華やかな大会と同じころ由良小学校グラウンドでも小さな野球大会がありました。

公民館主催の四部対抗球技大会ですが(成績は行事報告のとおり)この大会は戦後まもなく開催され半世紀を越えて続けられています。

野球少年であった私も、この大会で活躍された各地区の選手をあこがれのスター選手のように

に見詰めていました。

既に故人になられた方もありますが由良地区のスポーツ振興に寄与された先輩諸氏に心から感謝と敬意を表したいと思いません。

戦後、野球用具も十分でない時期一個のボールを大切に野球のおもしろさ、楽しさを教えてくれたのが、この四部対抗野球大会であり当時の野球少年に夢を与えてくれました。

そんな由良地区の野球を語るとき一番に想い浮かんでくるのが故大森寅一氏でありその功績

は大なるものがあります。

大森氏が少年野球の指導者となられたのは、昭和五十二年頃由良地区の有志から強く要請されて引き受けられたもので以降平成三年六月不慮の事故が原因で死去されるまで実に二十余年間熱心な指導は続けられました。暑い時も寒い時も背筋をピンと立てたユニホーム姿で校庭に立つ大森氏が臉に浮かびます。基本に忠実に！をモットーに

打撃練習では自らボールを投げ少年たちが納得するまで練習は続けられました。

時には厳しい練習で涙を流した少年もいただろうと思いますが、今夏の四部対抗球技大会には大森氏の指導を受けた元野球少年たちが各地区の主力選手として活躍していました。

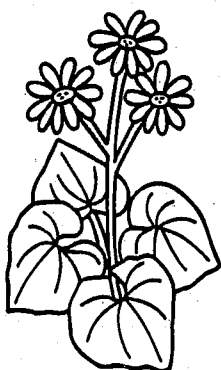
その後、少年野球の指導者は岸田剛氏、中西一孝氏へと替りましたが指導に懸ける情熱は些かも変ることなく綿々と受け継がれていることは本当に喜ばし

いことであり、将来育っていく野球少年があらゆる面で地域の担い手として活力を与えてくれるものと期待しています。

学校週休五日制を受けて、地域と学校・家庭の連携は益々不可欠のものとなりますが、昨今テレビゲーム等の流行で家庭のなかで遊ぶ子が増えています。

また、少子化とスポーツの多様化により少年野球チームの活動にも支障が出ると危惧されていますが、スポーツを通して学んだ経験は、体力、気力ともに生涯の大きな糧になると信じています。

地域の皆さんの暖かいご支援により少年野球が益々発展することを願い、またそうすることが大森寅一氏が残された功績に報いるものと考えます。



# 行事報告

主事 枝川 隆亮

青年野球

優勝 四部

一般ソフトボール

優勝 四部

玉穂会による民謡の披露があり、日頃の練習成果を充分に発揮され、多くの観衆を魅了しました。

## ◎六月九日(日)

### 四部対抗バレーボール大会

梅雨を前に、木々の緑が少しずつ濃さを増す様になってきた日、恒例のバレーボール大会が実施されました。

三位 一部 四部  
四位 二部 一部

## ◎八月十四日(月)

### 四部対抗球技大会

余裕を持ってチームを編成できた地区、行事が重なり開始時間に選手が集まらず、棄権寸前までいった地区等色々ありました。事故もなく無事に終了できました。

昨年は日曜日しか休めない人が多いため十二日の開催でしたが、お盆の球技大会に参加することを楽しみに帰省する人が多い、という意見があり今年開催日を変更し実施しました。

地区民の数が多いところは、やはり強く今年も昨年とほぼ同様の結果となりました。

以下試合結果を報告いたします。

男子の部	女子の部
優勝 三部	優勝 三部
準優勝 四部	準優勝 二部

ソフトボールは女性の参加が昨年から見られる様になり、喜ばしく思います。  
結果は次の通りです。

## ◎八月十八日(日)

### 盆踊り大会

「子どもと老人のふれあい事業」をテーマにし、お盆の行事・盆踊り大会を本年も実施しました。

現在は子供地藏盆行事と一緒に三年前より松原寺境内で実施しています。

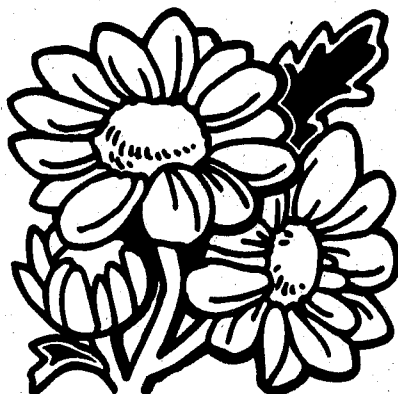
第一部 子供地藏盆

第二部 盆踊り大会

の二部構成で行いました。

盆踊りは、古くから由良で踊られているエーヘーヤと由良小唄を中心に60余名の踊り手が遅くまで晩夏の一夜を楽しみました。

台風13号の影響を受け、強風で小雨交じりのあいにくの天候でしたが、途中休憩時間には公民館サークル活動のうち、大正琴「綿遊会」の演奏、



## 「こころ」

由良小学校長・幼稚園長

吉田 均

今年の夏休みの最中、岩手県で高校生が仲間とはかり、自分の祖父母を殺害しようとする事件が発生しました。夜遊びに行く度に注意されうつつうしかつたというのが動機のようにでした。

どうも最近の若者の「心」がおかしい。大方の若者は心やさしく、真面目で親孝行であろうが、教育のどこのところに問題があるのでしょうか。

この四月から新学習指導要領による新しい教育が始まっています。文部科学省は「心の教育」の充実と「確かな学力」の向上を教育改革の重要なポイントとして掲げているところですが、「心の教育」については、すでに平成元年に改訂された学習指導要領の基本的なねらいの中に「社会の変化に自ら対応できる心豊

かな人間の育成」という文言で示されています。

その後、とりわけ「心の教育」の大切さが強調されたのは、平成九年に神戸市須磨区で小学生男児が惨殺され、中学三年生が逮捕された事件で、当時の京都府の教育長は「心の教育の重要性を改めて浮き彫りにした事件であった」と述べ、子ども達の豊かな心の育成が急がれるとの考えを示しました。

更に「心の教育」の必要性を決定的にしたのは、昨年六月、大阪池田市の小学校内で起きた児童無差別殺害事件で、余りの凄惨さに世間は声を失いました。この事件の容疑者は大人でしたが、青少年時代の不遇な過ごし方が事件の引き金になったのではないかと言われました。

「心の教育」の大切さは文字通り心では分かっているはずですが、果たして「心」は教育できるのかとなると、これは大変難しい課題であると言わざるを得ません。

「心」を教育するとなると、考えようによっては何やら恐ろしく、昔の教育統制時代も思い起こされ、これは時代に逆行することになります。

「心の教育」とは、「心」に教育することであり、言い換えれば「心」を育むことに他ならないことは言うまでもありません。「育む」とは「羽ぐくむ」ことであり、あたかも親鳥がひなを羽でおおいつつんでそだてることとあります。

ところで、「物が豊かになれば心が貧しくなる」というのもよく言われることです。最近の物量の豊富さは異常な程で、環境問題の大きな原因の一つになっているところではあります。

この夏、テレビで花火大会の

中継をしていましたが、主催者が「ゴミは各自で持ち帰ってください」といくら放送しても無視する大人がほとんどで、中にはテレビカメラの前に平気でゴミを置いて行く女性もいて、道徳心の無さにあきれたほどでした。子どもに心が育っていないという前に……。という思いがしました。

宮津灯籠流しの明くる朝、市内の国道を走っていると、歩道や駐車場を清掃している人を何人か見ました。由良の浜に今年海水浴に来たお客さん達のマナーはどうだったでしょう。少し気になるところです。

物が豊富になるにつれて、生活は確かに豊かになりますが、先進技術を駆使した機器が回り、生活が便利になるにつれて心が失われていくような感じもします。その筆頭が携帯電話で、その功罪については説明するまでもありません。出会い系サイトにまつわる事件のいかに多い

ことか。

コンピュータ万能の世の中になり、メカに弱い私などは大いに肩身の狭い思いにかられる毎日です。

確かにコンピュータの機能には人間の生活を便利に、快適にしてくれるものがたくさんあります。数年来、ロボット犬が話題となり、今では市販もされていて、人間の新しいペットとしてその地位を占めつつあるようで、何年か先にはロボット犬を連れて散歩している光景も普通になるような気がします。

ところが、なにしろ疲れを知らないロボット犬ですので、しまいは人間がロボット犬を連れて散歩しているのか、ロボット犬が人間を連れて散歩しているのか分からなくなったりして、何とも哀れな様子が目に浮かびます。

でも、一人暮らしの老人の介助をしたり、アメリカ映画のしゃべる犬スクービーみたいな、人

間の話し相手になるロボット犬やロボット人形が現実活躍しているようで、コンピュータは人間の生活に無くてはならない存在になりつつあります。鉄腕アトムは漫画の夢物語ですが、人間型ロボットが街を歩く日が来るのもそう遠くないと思われます。

科学技術の進歩は医学にも及び、一昔前まではおよそ考えも及ばなかったことが現実になりつつあります。人間の手で全く同じ性質を持った生き物を再生させることも可能で、クローン牛やクローン羊は現実に生まれています。クローン人間は今のところさすがに倫理上の歯止めがかかっていますが、報道によりますと、外国ではここ数年の間に医学的な見地に限って、例えば不妊治療目的でクローン人間を誕生させる計画もあるようです。いよいよ「倫理」の解釈も人間が変えてしまわないかと少々心配になります。それこ

そ杞憂になるよう願わざるを得ません。

テレビ番組で人間の受精卵からSA細胞とやらを取り出して、それを増殖させて臓器を作る研究をしているところが放映されました。心臓、肝臓をはじめ、あらゆる臓器や神経までも作ることができるようで、人間のパーツの製造技術は二十一世紀の初頭には完成するそうです。人間の体で悪くなった部品？は人工パーツと取り替えて、いつまでも長生きできるといっわけです。人間古来、洋の東西を問わず多くの人が無駄な挑戦を繰り返し、人類永遠の夢であった不老不死の妙薬？がいついに見つかったといっわけです。

しかし、喜び勇んで、脳まで入れ替えた日には、本人が他人になったり、他人が本人になったり、家族が家族で無くなったりにして何やら空恐ろしい気分になります。こんなことになっては、長生きどころか、早くこの

世からおさらばしたいと逆に思ったりすることでしょう。

どうか人間の「こころ」まで入れ替えることの無いようにしてもらいたいものだと思います。最近の世の中の変容ぶりを見ていますと、人間としての最後の砦は「こころ」なのだなくづく思います。

「心の教育」から「人間とは何か」という命題にまで発展しましたが、子ども達に豊かな心を育む教育の重要性が今ほど叫ばれている時代は無いのではないかと思われまます。

二十世紀は「物の世紀」でした。二十一世紀は「心の世紀」で締めくくられるようになってほしいと思います。



# 駅伝

六年 岸田秀章

ぼくは、本当は走るのがあまり好きではありません。だけど、駅伝の練習をしているうちに、走るのっておもしろいと思いました。

それは、タイムが上がるとうれしいし、下がるとくやしい気持ちになるからです。

ぼくは、走るのがけっこう得意だけど、駅伝の選手になれるほど得意ではありません。

しかし、本番前夜になって、「もし大二郎君が休んだら、ぼくが出るんだ。」

と、きんちようしてきました。

そして、当日に大二郎君が来てほっとしました。それと、安心しました。なぜ、安心したかというと、ぼくが走っていたら記録がだめになっていたと思っただからです。

ぼくは、大二郎君が「どうすれば楽になるか」とか「どうすればよらんばれるか」と、考えながら一緒にアップをしました。

そして、大二郎君が走り出しました。ぼくは、大二郎君と自分の荷物を持ってバスに乗っている時に、大二郎君のマネージャーになった気分でした。

大二郎君が走り終わった時はほっとしました。

だけど、全員が終わったのではないので、いい記録が出るのを願っていました。

そして、四位でゴールした時は、「やったー。」と、思いました。

自分が出たわけでもないのに、なんでこんなに喜べるのかなあと思っただけで、それは、毎日

みんなと練習してきた仲間だからだと思えます。

この駅伝で、自分がやって自

# 駅伝

六年 酒田紗也加

私は、駅伝の補欠に選ばれたのが初めてなので、少しおどろきました。選ばれたからにはがんばって練習しました。

中尾さんと一緒に、グラウンドを15周から20周ぐらい毎日走りました。いよいよ本番です。

私は、一区の補欠で、特にやることはないけれど、がんばって応援をしてあげられたらいいと思います。スタートを待っている時、走らない私もきん張してきました。補欠の人は、バスに乗ってゴール地点で待っていたので、スタートが見られなかったのが残念でした。

ゴールで待っていても、中尾さんがなかなかこないで、心

分が喜べることをしたいと思えました。

配して待っていると中尾さんが走って来ました。私は、中尾さんの横と一緒に走って、「がんばれ。」

と、声を何回も何回もかけました。中尾さんは4位という、とても速い成績でした。

由良のチームは、みなさんががんばったので、四位というすばらしい成績でした。ベスト三位には入らなかつたけれども、一人一人の力はすばらしいと思いました。

私も、応援だけでなく、駅伝に参加でき、走り切るという感動を知ることが出来、よい経験になりました。今度は、選手としてこの感動を味わうことができればいいと思いました。

# 駅伝大会

六年 田中 結人

# 私の勝負

六年 中尾 幸奈

6月2日に、駅伝大会がありました。ぼくは、11区を走りました。ぼくは、走る前のアップで、

「あー、なん位でくるのかなー。」  
 と思いながら2キロ位アップをしていました。そして、アップが終わると、その辺でブラブラしていました。2回の選手確認が終わると、先頭の人やほとんどんきました。そのときぼくは「まだ由良はこないのかなー。」と心配になってきたけど、つださんがはげましてくれたり、「一人はぬいてこいよ。」  
 と言ってくれたので気が入りました。そして、5位から、1分位おくれて、由良が6位できました。ぼくは、  
 「あつ、だいぶおおくれているな、前の人ぬかせるかなあ。」

と思いながら、全力で走りました。そして、1キロ位の所で前の人をぬくことができました。しかし、まだ後1キロものこっているの、4位との差も縮めようと思って、がんばって走り続けました。しかし、4位の人をぬくことはできませんでしたが、一人はぬけたし、自分のベストをつくせたのでよかったです。今年の駅伝は結果は4位で入賞できなかったけど、みんな力を合わせてがんばれたのでよかったです。



初め、選手に選ばれた時とてもビックリしました。

選手に選ばれてからは、特にがんばって練習を始めました。

学校のグラウンドで練習したり、私は由良のコースを走るので父と一緒に私が当日走るコースで練習をしたりしました。

けれどタイムが5分48秒からなかなか上がらずとても不安でした。

その思いで、当日を迎えてしまいました。

駅伝に出るのは初めてだったので、私は朝からきんちょうして、食事のどに通りませんでした。

走る前になった時は、人もいっぱい見に来て、きんちょうも増して来ました。

そして、「ドン。」ピストルと

共に、私は走りました。駅前の直線コースは、無我夢中でした。

由良神社から脇の公民館にかけてが、とてもしんどかったです。

最後の方になると、「あともう少し。」と言う気持ちになってがんばれました。その思いがあったのか、6位から2人ぬかして4位になりました。

そして4位のままタスキをわたす事が出来ました。

ゴール前には、私のゴールを待つてくれる酒田さんを見つけたらラストパートをかけた。

私が一番不安に思っていたタイムは、みんなの応援のおかげで、5分26秒で前回の記録にあと8秒でした。うれしかったですけれど、少しくやしかったです。

どんどんタスキがつながり、  
いよいよゴールです。

由良は4位で、みんながんばっ  
たと思いました。  
私にとって駅伝は、勝ち負け

# 駅伝大会

六年 中 西 大 二 郎

駅伝大会は、前よりすごくき  
んちようしました。

なぜかと言うと、前は補欠で、  
今年では走らなければならないか  
らです。

ぼくは、まず秀章君と車に乗っ  
て、タスキをもらう場所へ移動  
しました。でも、まだくん田の  
人しか来ていませんでした。で  
も、ぼくたちがジョギングをし  
て帰ってきたら、たくさんの人  
が来ていました。

その後も、どんどん集まっ  
てきました。そして、2区の人た  
ちが走ったと聞いて、待ってい  
ました。

より、一人一人がたくさんのお  
えんを受け、タスキがとぎれる  
事なくゴールにとどく事が一番  
大切な事だと思いました。

「あつ、来た。」と思ったけれ  
ど、ちがう人でした。まだかな  
と思っていると、やっと来まし  
た。ぼくは、順番を呼ばれて、  
配置につきました。

タスキをもらうと、すぐにか  
たにかけ、落ちないように、ズ  
ボンの中に入れて走りまし  
た。走っていると、お母さんやお  
父さんが応援していたので、  
「がんばろう。」と思って走りま  
した。

やっぱり走っていると、おな  
かがいたくなりました。でも、  
それをこらえて、タスキを渡す  
所まで来ました。前の人との差

は、けっこうありました。  
タスキを渡して、すぐに横に  
行きました。体がふらふらして  
たおれそうでした。

# 駅伝大会

六年 松 林 晋 吾

今年の宮津駅伝大会では、ぼ  
くは十一区の田中結人君の補欠  
として参加しました。由良地区  
は前から上位に入賞していると  
聞いて、今年も上位に入賞して  
もらいたいと思いました。

スタートしたというのを聞い  
て、とてもドキドキしました。  
「今、何位かな。」  
と、ずっと思っていました。

そのあと、由良地区の順位を  
聞いてほっとしました。なぜか  
という、高順位だったからで  
す。四位でした。それを聞くと  
ぼくと結人君はバスに乗り十一  
区まで行きました。順位は聞い  
てなかったけど、高順位を願っ



駅伝の結果は、四位でした。  
ぼくが一番うれいしいのは、最  
後まで走り切れたことです。

ていました。十一区につくと、  
早速来ました。府中地区でした。  
そのあと、宮津市東部や日置

地区が続きました。

「まだかな。」

と、思っていた時、由良地区が来ました。

そして、タスキは十一区の結人君に渡されました。結人君は自分にある力を存分に出すように走りまわりました。ぼくは、そのあと、すぐ車に乗りこみ十二区に先まわりしました。ついた時、丁度、結人君が十一区を走り終

える所でした。みんな、

「がんばれ」

と、言いました。

すぐに会場にもどると、由良地区はすでにゴールしてしまいました。結果は四位でした。三位以内には入れなかったけど走った人は、くいが残らなかったと思います。来年もがんばってほしいです。

## タスキにたくされた物

五年 尾崎 華

今回は、朝七時五十分に家を出て、ドキドキしながら里センターにむかった。「宮津市駅伝大会」という駅前の旗が、波のようによれている。

八時。みんなとバスに乗り、駅伝の開会式のある宮津体育館へ行った。バスの中での選手の人たちは、暗い顔をしていて、きん張している様子だった。

開会式では、他の地区の人たちが、足の速そうな人たちだったので、ますますきん張してしまった。

私の走る場所は、上宮津小学校から鳥が尾バス停前までの、1.71kmだ。ほ欠は、可奈絵ちゃん、いっしょにアップをした。ゆつくり走るつもりだったが、こうふんして、だん

だんと、ペースが速くなってしまった。

「府中地区来ました。」

と、係の人が言った時は、由良は何位だろうとビックリした。由良は六位に入ってきた。タスキを取って走る。運動場を走っている。のどがカラカラにかわいている。すぐくえらい。でもがんばる。歯をくいしばって……あと五百mだ。みんなが応援

## 駅伝に行つて

五年 中西可奈絵

八時に、由良の里センターに車に乗って行きました。ほかの人たちも来ていました。私は、「早く駅伝が終わってほしいなあ。」と思った。

みんなが集まってきて、あいさつをしてバスに乗ると、お母さんやほかの人に、「いってらっしゃい。」と言われたので、「いってきます。」と言ってまど

してくれている。ラストスパイトだ。結人君が見える。

ゴール!

結人君が、前の人をぬかしてくることを願って……。

一人もぬかせなかった。だが自分のせいはいっぱいの力を出して走りきった。

一本のタスキが選手、一人一人の気持ちをつないでくれたのである。一本のタスキが……。

をしめました。

そして、市民体育館に向かいました。私は、ほ欠だったけど、なんだか、きん張していました。

なぜかと言うと、バスの中がとても静かで、みんな前を向いていたからです。

市民体育館に着くと、あいさつがありました。きん張してました。



それから、バスで各コースに行きました。グラウンドを走ったり、話したりしました。由良の選手が、はなちゃんにたすきを渡して、はなちゃんは、走って行きました。

私は、「やっぱりすごい。」と思いました。それから、バスで市民体育館に行きました。

あいさつを聞いて帰りました。由良は4位だったのでもちよつとさんねんだったけど、みんながんばって走ったので、4位でもいいかなと思えました。



# 川柳

大森美智子

ひとたびのパフォーマンスと陽は落ちる

たつぷりの撒餌で夢を釣ってます

幻想の世界へ誘うガラス館

飯沢鳴窓

無影灯いのちの橋を渡り切る

水に絵を描いてがれきを積んでいる

情報が俺の境地を奪い去る



# 古・神道とは

由良神社 宮司 嶋谷卓之

「〇〇神社さんですね。ご住職さんおられますか？」こんな電話を最近よく耳にします。

ここ数年来お宮とお寺の区別がつかない人がふえています。大体は声の主からして五十才代以下の人が多いようです。

確かに明治初年の神仏分離令の法律が制定されるまではお宮に社僧が、お寺に別当がいて神仏習合の時代が続いてきたことは事実です。

それにしても区別のつかない、あいまいさの多さに現実問題として驚きます。

現に若者の間では宗教を流行・ファッションとしてとらえているのも事実です。その例としてマスコミによく取り上げられる陰陽師・阿倍清明神社等ブームとしての現象がみられます。

確かに科学万能の時代とはいえず、理論で答えのない未知の世界は神秘的であり魅力さえ感じます。霊界のなぞに憧れるのもその一つ。人間心の不思議さもそこにあります。生命の始まりと終り、その間の苦悩等続く限り宗教は不滅なのです。

では、「古神道」とは何ですか？よくこのことばを尋ねられます。仏教や儒教が日本に伝来したとき、日本にそれより古くからあつた自然崇拜の宗教とを区別するために名付けられたものです。

自然に対する畏れ、感謝の気の表われが神の道として成立し凡そ二千年にわたって仏教、儒教と習合しながら存続しているのです。もう少し詳しく説明すると農業神・商業神・火の神・

水の神・鉾山の神・生活に関わる諸々の八百万の神々、この神々は八万社とも十万社ともいわれる神社に現在も祭られています。古神道は大自然の神霊の存する天地・火と水・山・川・海から御陰を戴いているという自然崇拜の信仰なのです。

ではそれなら神々にお供えするお初穂は？三角おむすびが弥生時代(約二千年前)から捧げられた神饌だったと云われています。それは神道の中心となる「日の神信仰」なのです。四季を生み、植物を繁茂させ、川や海に季節ごとの魚を呼び寄せるのは、太陽の熱と光であることに古代人は知っていたのです。

最高の神格である太陽神の天照大御神このエネルギーこそ靈魂の強弱に密接な関係があることを信じていたのです。三角おむすびの天辺は、太陽パワーを受けとるアンテナであり、本体は太陽エネルギーをストックする蓄電池、つまり三角おむすび

を日の神に供えてのちに、それを下げ、同族で分けて食べることによって、その中にたくわえられた日の神のエネルギーをとりこみ、タマシイを再生させて、強化し、強運を祈ったと云えます。

後世になるにつれて、おむすびは丸形になるが、神に供えるときは三宝の上に三角に盛って、神の力により近づくとという意味を表わしている。

神饌のすべては、米・塩・野菜・果物・魚肉・干物にいたるまで三角盛りです。その原型は弥生の三角おにぎりといえます。神へのお供え、つまり神饌で最も重要なのは「初穂」です。

初穂穂が語源ですが「初もの」という意味です。初物は旬のものであり、野菜、くだもの、魚等生命現象が盛んになつてもっともタマシイが充実しているからです。若々しいタマシイを神に供えて、神の力の若返りを願い、のちに直会で食べることに

よって、参加者全員のタマシイの若返りをはかったものです。つまり「初穂」は長寿食でもあったのです。

したがって古神道の思想は現在も脈々と受け継がれ息づいています。今、マスコミで話題の、

## 四部対抗バレーボール大会に参加して

中西明子

また、今年もうれしい事にお声をかけていただいた。元気に参加できるといふ喜びでいっぱい、ふたつ返事で快諾をしました。とはいっても、「この中で私が一番年上かも。いや同級生もいる。」と胸をなでおろしたのもありました。ネット越しにみる顔は毎年懐かしい顔ぶれではあるが、フアイトが溢れて見えました。

三部はこの何年間か、十年以上も前から優勝を続けているという事で、始まるとすぐにその

陰陽師の秘儀も古神道の中にある、例えば反魂蘇生バンコンセンセイキョウホウ之行法等もあって死と再生の奥義他、謎の部分も数多く残されています。それではこのあたりでペンを閉じさせていただきます。取り急ぎ乱文おゆるし下さい。

《連続優勝》の文字が頭をよぎっていききました。一試合目1セットをすぐに取られてしまいました。「こんな筈ではない。」と思いつつも、「このままズルズルと……」と冷汗がでてくる思いがしました。

それでも、頭の片隅には「まさかこんなことでは、連勝に傷がつく。絶対、必ず勝つぞ。」という言葉が浮かんできました。年に一度の親睦のためのバレーボール大会だとは思いつつそれ

でもやるからには勝たなければと必死になっている自分に気が付くのでした。結果はご存じのように、連続優勝・アベック優勝となり、祝勝会のなかでは、今回の反省と来年の作戦会議をみんなで行いました。

年に一度、地域の人たちがそろって「あの人どこの人?」「どこかで見たような顔なんだけれど思い出せんなあ。」「よそは若い人がたくさん入っているなあ。」などと試合以外のことにばかり花を咲かせながら、一年間の交流を広めています。

この由良の地に移り住んで周囲の人達と交流を考えていても、なかなか機会がないようです。しかも、女の人達の場合はせっかく顔を広めようとしても、子供に手を取られる時期になるとしばらくの間は同年代の子供をもつ親とは話す機会もあるが、広く年代の異なる人達との付き合いがどうしても少なくなってしまうような気がするの

です。男の人達はこの大会のほかにお盆の野球・ソフトボールや二年に一回の運動会などそのチャンスは広がっているのではないのでしょうか。せっかく特技を持っていながら、長い間披露することもなく、ひっそりと暖めている。気が付けば「気は焦るが体がついてこない」状態になっっているのが情けなくなるのではないのでしょうか。

それでも、他の地域は選手を見つけるのに四苦八苦をしているとは聞くのですが、三部は気持ち良く協力してもらい、よい結果を残せているのではないのでしょうか。

ワールドカップサッカーがあり、ルールを知らない人でもただゴールを狙う選手にあんなにも燃えて応援した姿は、大人も子供も変わらなかつたと思えます。自分でもその応援を受けて、スポーツにチャレンジしてください。

声がかかったら、みなさん一

## 四部対抗バレーボール大会に参加して

千坂 幸雄

度は参加してみてください。忙しいとか・暇がないとか、スポーツは苦手だとか関係なく、お父さんもお母さんも、真剣にボー

六月九日(日)午前八時三十分から午後四時まで、由良の元気な人たちが集まってバレーボールの熱戦が繰り広げられました。

男女とも十二名の選手編成で参加者数は選手だけで九十六名になり、役員や応援の方も含めると約百三十名の人々が由良小学校に集まったこととなります。開会式では、公民館長の開会の挨拶に始まり、審判長の注意がありました。その後、準備体操を行って第一試合が開始されました。どのチームもチームワークが良く、円陣パスをしながら準備運動をして、試合中も勝つ

ルを追い掛けて親睦のなかにも勝負をかけて、「打倒浜野路」を目標に掲げて参加してください。

ことだけでなく、みんなで楽しく頑張ることをころがけて、メンバーチェンジをしながら頑張っていました。

男子はこのチームも勝ったり負けたりで実力が伯仲し、最後まで優勝がどこになるのかわからない状況でした。

三部男子チームの様子は、一回目で四部とあたり、勢いにとつて三部がストレートでセットを取って勝つことができました。二回目では二部とあたり、一回目の勢いで勝つていくと思われましたが、三セットにもつれ込み、接戦をしましたが負けてし

まいました。三回目には一部とあたり勝つことができました。

結果的には勝ちセット数で三部が優勝しました。これで三部男子の優勝は三年連続になりましたが、どの部も実力は変わらな

いと思います。三部は練習会を一回持ちましたが、他の部はどうか。練習を多量にしようか。練習を多くしたチームが勝つのではと思

います。バレーボールを専門でしていた人は少なくスパイクの攻撃やブロックで勝敗が決まるというより、サーブミス、レシーブミスの少なかったチームが勝つゲームです。みんな真剣になってボールを追いかけ落とさないように相手に返していました。ラリーが続き大変楽しかったです。

三部の男子は若い選手が増えてきたように思います。選手を集めるときにも前もって用事が入っていない限り若い人が積極的に参加を表明してくれました。また、長年にわたって参加して

いる年配の方は自分は出たいが、できるだけ若い人に出てもらってほしいという要望がありました。「人数がそろわなかったらいつでも出ますよ。」という励ましのことばでした。このことが、チームの活性につながっていると思います。

大会が終わってから毎年公民館で参加選手や役員の方々と反省会をしています。このことも地域の人たちとの年代をこえた交流の場となり有意義なひとときを過ごさせていただいております。

スポーツは、運動をしてからだを動かす欲求を満たし、仲間との交流を楽しみ、日頃のストレスの解消になります。これからの世の中は、自分で計画的に運動をしないと必ず運動不足になり生活習慣病になりやすくなります。いろんな行事に積極的に参加して運動不足を解消したいものです。そして、由良の住民の一人として由良の人々との

交流をしていただきたいと思  
います。若い人たち（二十歳代、  
三十歳代）は、自分のしたいこ  
とがたくさんあると思います。が、  
由良の取組に積極的に参加して  
ほしいと思います。若い人たち  
が少なくなってきたからこそ、  
今までより若い人たちは貴重な  
存在です。若い人たちの活躍し  
ている地域は、活気があると思  
います。

## 四部対抗ソフトボール大会に参加して

藤 本 長 壽

八月十四日に恒例のソフトボ  
ール大会が行われました。  
毎年猛暑の中、多くの人たちが  
出る汗に心地よい快感を覚える  
のは私だけなのでしょう。か  
「こんにちは、お久しぶりで  
す」と由良に住んでいてもほと  
んど日頃出会うことのない人は

私は、まだまだ由良のことが  
わかりません。由良に住んでい  
る限り由良のことをよく知り、  
少しでも由良のために役立とう  
とすることはあたりまえだと思っ  
ています。人は助け合って生き  
ていくものですから。

これからも毎年バレーボール  
大会は続いていくと思います。  
私は、みなさんと一緒に参加し  
ていきたいと思えます。

かりで、一年ぶりに出合い、挨  
拶を交わすのもまた楽しみの一  
つです。  
選手は「むかし取ったきねづ  
か」で気持の上では、余裕があ  
りそうですが実際は体が動かず、  
珍プレーの続出で、ならばと口  
プレーに徹したりとお互いに和  
気あいあいの試合でした。

今年の特徴は三部の女子高校  
生達の大活躍でした。打つは・  
守るは・走るはと年寄りのプレー  
とは対照的に実にうらやましく  
も、頼もしく感じ、すがすがし  
さの残るものがありました。  
また、グラウンドの楠の木の  
下でお互いのチームがベンチを  
共有し、(暑かったの  
で日陰を求めた)応援  
に来てくれた人達と入  
り交じりタイミン  
グのいいヤジを飛ばし、笑  
いを誘いながら本当の  
親睦が出来たのではな  
いでしょうか。

来年も出場できるよう、無理  
をせず少しずつトレーニングを  
積み元気に再会できることを楽  
しみにしています。  
最後になりましたが四部対抗  
球技大会を企画運営していただ  
いた役員の皆様へ感謝いたしま  
す。

勝負は時の運と言  
いますが(そんな大げさ  
なものではないが)  
ちよつぱり勝負にこだ  
わりながら、この一日  
を大いに楽しみたい、  
そんな思いが選手に応  
援に来てくれた人達の  
笑顔にじみ出ていま  
した。



# 炎天下で得た満足感

川崎 直樹

八月になると「ああ、今年もきたか」と気が重くなる。恒例の四部対抗球技大会が控えているからだ。

別に、野球をするのがイヤな

訳ではない（確かに、炎天下で野球をするのはキツイ！）。体育委員には、メンバーを集めるといふ大仕事（!?）がある。これが気を重くするのだ。

それでも毎年、快く引き受けてくれる人がいるから助かるのだが、今年は大会当日が平日ということもあって「その日は仕事や」と断られ続ける始末。電話の前で、何度、溜め息をついたことか……。

「人数足りへんかったら、やっぱり棄権になるん？」という、呑気な声を背中で聞きながら、そんな前代未聞の事態を避ける

為、出てくれそうな人の顔を思い浮かべては電話をかける、の繰り返し。そんな苦勞の末、ようやくメンバーが揃ったのが前日だった。

そして迎えた八月十四日。

暑い！

どうしようもなく、暑い！

しかも、野球は午後からのプレー。「こんな風に耐えられるのは、高校球児ぐらいやろ……」と、肚のうちで文句を言っていると、試合中に突然の雨。通り雨の後には余計に蒸し暑い！

日頃の運動不足に加え、三十分以上の気温に体力を奪われたせいか、一試合目は勝ったものの、思わぬ苦戦。いつもの楽勝ムードはどこかへ吹っ飛んでいてしまった。

「次の試合もキツイんとちゃ

うか……」

一抹の不安をかかえて臨んだ決勝戦。相手は三部。なんと、今年の三部は若者揃い。それに引き換え、我が四部はメンバーの半数以上が三十歳を超える壮年チーム。しかも一試合目から休憩なしで挑む勝負である。やはりキツイ。

試合は相手のペースで進んでいく。これではいけない！焦りは募るが、結局一点ビハインドのまま、ついに最終回。

「今年は優勝、無理かナ……」とほんの少し、諦めかけた、その時！蒲原さんの劇的なレフトオーバーの2ベースヒットで同点となり、延長の末、今年も優勝を勝ち取ることができた。

嬉しいことに、ソフトボールも優勝し、二年連続のアベック優勝となった。

こうして終わってみると、あの大会前の重い気

分はどこにもなく、むしろ、しっかり汗を流したことへの充足感すらあり、「おもしろかった」と思えるのだから、不思議だ。これだから、野球はやめられないのである。

最後になりましたが、参加して下さったメンバーの皆さん、本当にありがとうございます。来年もアベック優勝を目指して、頑張りましょう。



# そろばん指導の任務を受け

タイ国の田舎に一年間暮して(二)

シニア海外ボランティア 西野 啓子

タイのお正月、ソングラーからスタートしたバンコクの生活に別れを告げ、現地に向かったのは一ヶ月後でした。赴任地はイサーンと呼ばれタイでも最も貧困の地、何に出逢っても、何が有っても頑張るぞ！と自分に言ってきた現地入りの気持ちを今も思い出します。

ラオス、カンボジアと国境を接する、タイ東北部、ヤソートー県そこは見渡す限り地平線の赤土の大地でした。土地は塩分を含み、作物の収穫もなく、涙の大地と呼ばれて居たとか、近年農業技術の向上で米も収穫出来る様に成った、とは言っても殆どの大人は、都会バンコクへ出稼ぎに行き農繁期に戻って来るだけ、現金収入を得る生活で、都会の空気もこの田舎に入ると

来て場違いな立派な家が、所々に姿を見せているのが異様です。

タイには、マイ・ペンライとい、平気、等々の意味ですが、

どうもこれを受け入れるのは不可解な思いで暮しました。貧富の差が激しい当地では、金持は、只に近い賃金で人々を雇い、文

明の恩恵を受け豊かに暮しています。貧しい人達は、唯、食べ

る事だけの為の収入を得る為に働く、そんな日々の生活にも人々

は、マイ・ペンライと笑顔で暮して居ます。諦めなのか、それ

とも、現世に不平不満を言わず暮すことが、来世の幸福に繋が

ると信じている為か解らないけれど、話の終りは常に、マイ・

ペンライで結ばれます。

一軒家を借りて生活の始まり

です。テレビ、冷蔵庫、洗濯機等買いに町へ出ました。電子レンジは普及して居ない様で現物が見当りません。女店主が自分の台所に案内してくれて、これか？と見せてくれました。有ることは有るんや！と安心して、

後日買えばいいと思い、今日の品物と伝票を照合してみると、アレ、無かったレンジが数に入っ

ている。箱を開けて見ると先程この家の台所で使ってた居たものが、チョココンと納まり出荷準備

がされています。伝票は定価通りの金額、これは駄目と言うと、

どうして駄目なの、と言います使いた古しやないの！と言ったと

き、出しました、女主人の口からマイ・ペンライ！

タクシーも無い田舎の移動の手段はサムローと言う、人力車

に自転車を取り付けた様なもの、これは乗る前に値段の交渉をし

ておかないと、後でとんでも無く高い事を言われる。顔馴染になってもそのルールは守らない

とタイでは通用しない。そこで自転車を買って移動の足とした。店内から持ち出された現物は空気入れの所がひどく曲っているの、夫が、他のと交換して欲しいと言うと、又々出ました、マイ・ペンライ。

さて、サムローに乗った時のことです。雨上がりで座席が濡れスポンジの腰かけはしつかり

と水を含んで居たからたまりません。腰を据えた途端、パンツまでビッショリ！モオー、イヤ！

マイ・ペンライの言葉と一緒にお金を受取る手を出しています。信じられません。余談ですが、このサムローのおじさん達、

バス停等で客待ちの時、ほとんどが眠って居るか、何かを食べています。働く気が有るのでしょ

うか。一家を支える収入に成るのでしょか。

これからの一年間、このマイ・

ペンライの中で生活してゆけるかと不安な私でした。

京 都 府 新 聞

2002年(平成14年)8月15日 木曜日



48年ぶりに対戦する由良川中と間人中の元選手たち  
(宮津市・運動公園グラウンド)

# 半世紀前の決勝戦再び

舞鶴の由良川中と丹後町の間人中

## 半世紀前の決勝戦再び!

大森 仁

野球……前号で「由良は野球の強い村」ということについて記しました。私が中学三年生の時(昭和二十九年)丹後地方で優勝し、奥丹後代表の間人(た いざ)中学と府下大会出場をかけて対戦しました。結果は投手戦、延長戦でも0対0で決着がつかず、くじ引きで我々由良川中が府下大会に出場しました。あれからなんと半世紀!六十歳を越えた今、熱心な呼びかけ人に皆さんが賛同、両校の当時の選手が暑い暑い八月十四日宮

## 昭和29年の軟式野球大会で引き分け

四十八年前、軟式野球が広がっていた。試合は、は現在六十二・三歳。ぎの丹後地区代表をかけた間人中が打ち勝ち、半世紀と野球で勝敗をつけの決勝戦で、引き分けに終結。おぼろげな勝利を手にしたい。そんな声が元選手たちから上がり、ふるが進むにつれて、白球少年だったころの感覚を取り戻したよう。「よっしゃー」との掛け声とともにランニングキャッチをするなど好プレーも見られ、双方の選手から拍手が送られた。

## 還暦すぎた元選手

### ソフトボールで決着

日、両中学の野球部OB(昭和二十九年、丹後盆で帰省する時期に合わが宮津市上司の運動公園後地区代表をかけた軟式試合)をソフトボールで決着させた。白髪まじりの対戦した。0対0。規定元由良川中から十七選手たちは、かつての機により9回引き分けとな人、元間人中からは三人敏な動きはみられなかり、ジャンケンで勝ったが棄まった。人数の少なたが、スポーツマンらし由良川中が府大会へ出場い間人中に由良川中OBは「いい試合ができてい友情が球場いっぱいにした。この時の選手たちが加わって午前十時、ブ



津運動公園に集いました。既に数人が他界しており、また、都合で参加できない方もおり、間人側から三名、由良川側から応援者を含め十七名、計二十名で「再試合」を楽しみました。

今回も大きな大きな想い出となるイベントで、その様子は地元京都新聞でも報道してくれました。(前ページ参照)試合後の懇親会では「今後は毎年再試合をやるう！」ということになりました。

ウルトラマラソン……去る九月十五日(日)に丹後100キロウルトラマラソンに参加、嬉しい「完走」を果すことができました。一緒に走ったマラソン仲間四人も時間内にゴールできました。今回の参加者は全国から一三四〇名。早朝の5時スタート、十二時間三十四分走り続け、夕方五時三十四分ゴールしました。(ゴール関門は夕方の七時)

過日対戦した間人の元選手や由良の友達が応援に駆けつけて

くれました。健康でいることの有難さを痛感しました。山登りやマラソンに興味・関心のある方はお気軽にお声をかけてください。



## 学校五日制に思う (2)

新しい学習指導要領で学校が変わる

浜野路分館長 大森章弘

(1)において学校、家庭、地域の連携の大切さを述べたので、ここでは「新学習指導要領」でどのように学校が変わるか述べてみる。「学習指導要領」とは、全国一定の水準の教育が受けられるようにするため学校が教育課程を編成する基準で、新学習指導要領では次の通りである。

一、完全学校週五日制の実施  
土、日曜日を利用して、家庭や地域社会で子どもたちが生活体験や自然体験、社会体験、文化・スポーツ活動など様々な活動や体験をすることが望まれる。

二、わかる授業、楽しい学校の実現  
完全週五日制の下で教育を行うため、授業時間を週当たり二単位時間縮減(教育内容は概ね三割程度削減)し、教育内容を厳選し、基礎基本を徹底することとなっている。

中学校では、生徒の能力、適性、興味、関心等が次第に多様化してくるので、適切に対応するため、生徒が自分で選択して学習できる幅を一層拡大し、個性の伸長を図る教育が進められている。

三、自ら学び自ら考える力の育成  
これまでの多くの知識を教え込みがちであった教育から、子どもたちに自分で考え、自分の考えをもち、それを自分の言葉で表現できる力や自ら学ぶ力を育成する教育へと転換を図り、社会の変化に主体的に対応できる力や、豊かな心、たくましさなどを育てる。学校教育では、いつでも自由に学び続けるとい

完全週五日制の下で教育を行うため、授業時間を週当たり二単位時間縮減(教育内容は概ね三割程度削減)し、教育内容を

う生涯学習の基礎となる力を育成することが大切で、体験的な学習、問題解決的な学習を重視し、子どもたちの挑戦を求めている。

道徳教育については、①幼稚園、小学校低学年では、基本的な生活習慣や善悪の判断、生活上のルールなどの徹底、それ以外は②ボランティア・自然体験活動を生かした学習を充実し、豊かな体験を通して道徳性の育成が図られる。

その他重要化してきた国際化へ対応した教育、情報教育、体育・健康教育の充実が図られる。

#### 四、特色ある学校づくりの推進

新学習指導要領では、各学校が創意工夫した特色ある教育を展開し、特色ある学校づくりができるよう、各学校の自由度が拡大されている。これにより子どもの実態に、より即した個性を生かす教育が展開できる。

そして高等学校では選択学習の幅が一層広がり、将来いづれの進路を選択する生徒にも一定

の知識や技能を身につけさせつつ、生徒の興味、関心、進路希望等に応じ、それぞれの分野について深く高度に学び、能力の伸長を図るため、選択科目の単位数を拡大し、必修科目の単位数を縮減する。(平成十五年度より学年進行で実施)。卒業に必要な総単位数は普通科で八十単位以上から七十四単位以上と大幅に縮減される。

#### 五、総合的な学習の時間の新設

「生きる力」の育成を目指し、各学校が創意工夫を生かし、これまでの教科の枠を超えた学習等ができ、これまでとかく画一的といわれた学校の授業を変え、①自ら学び、自ら考える力の育成、②学び方や調べ方を身に付けさせる等のねらいをもつ。

このように新学習指導要領は五つの目的をもち、今までの教育の大なる反省にたつて、二十世紀をたくする人材を育成するため、学校と地域社会の連携による教育が求められる。

## Uターンして思うこと

塩田奈津子

私は高校卒業後5年間京都市内で一人暮らしをしていました。私の通っていた専門学校は、

名勝嵐山のど真ん中に位置し、春には桜、夏には桂川の鵜飼、秋には燃えるような紅葉と四季の移り変わりを実感できました。

田舎育ちの私にとって市街地から少し離れ、静かでゆったりとした時間の流れるそこはとても居心地がよくホームシックに陥ることもありませんでした。休みの日には、電車に少し揺られて河原町や烏丸に繰り出し、ショッピングに映画に食事にと望むものはすぐそこにあり、由良ではこうはいかないよなすが口癖になっていったように思います。当初は戸惑った電車やバスの乗り方にもすぐに慣れ、5分や15分おきにくることが当たり前にな

りました。高校の頃は1時間1本なんていうのが当たり前だったのに……。

2年間の学生生活はあっという間に終わり由良に帰ることも考えましたが、縁があり卒業した専門学校で職員として引き続きお世話になることができました。教わる側から教える側になりましたが、たくさんの方の出会い、様々な経験をすることができました。3年目には職場の方々の協力、励ましのもとで最大の目標だった国家試験を突破することができました。1年目はがむしゃらに突き進み、2年目もどうにか切り抜けて、3年目もようやくふつと自分の状況が見えてきました。朝おきて仕事に行き、夜帰ってきてご飯作って

食べて片付けて、お風呂に入つて、一日を振り返る余裕もなく布団にもぐつて寝て、また朝が来て……。一週間同じ繰り返し。学生の頃にあつた時間や心の余裕がなくなっているのに気づいたときに宮津に帰ろうかなと初めて思いました。遊ぶ余裕がないわけでも時間に余裕がないわけでもないけれど心は窮屈でした。友人がほとんど京都にいたり、京都という街は大好きなので迷いましたが、ちょうど国家試験に受かり資格をいかした仕事をしたいと思っていたところだったのでUターンして就職することに決めました。

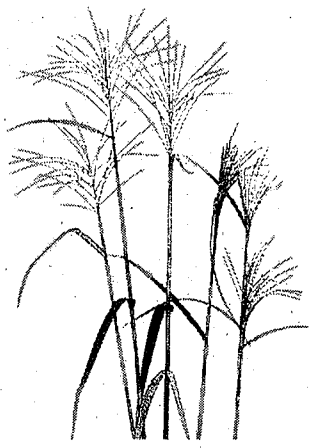
Uターンを決めてからは、あれよあれよという間に今の職場にお世話になることが決まり、自分の力不足を思い知りながら一年半が過ぎました。前の職場もでしたが、今の職場もたくさんの人との出会いにあふれています。まだまだ自分が納得できず、また周りの方々に満足しているだけで、お風呂に入つて、一日を振り返る余裕もなく布団にもぐつて寝て、また朝が来て……。一週間同じ繰り返し。学生の頃にあつた時間や心の余裕がなくなっているのに気づいたときに宮津に帰ろうかなと初めて思いました。遊ぶ余裕がないわけでも時間に余裕がないわけでもないけれど心は窮屈でした。友人がほとんど京都にいたり、京都という街は大好きなので迷いましたが、ちょうど国家試験に受かり資格をいかした仕事をしたいと思っていたところだったのでUターンして就職することに決めました。

毎日自家用車で通勤していますが、朝夕の奈具海岸の美しさには心が洗われる思いです。(こみがたくさん落ちていて悲しいですが……)夏は十数年ぶりに泳ぎました。水は透明で砂浜は白く、昔泳いだままの由良浜でした。夜は見上げれば満天の星を望むことができます。人は穏やかで時間がゆっくり流れ、改めて自分が生まれた場所の素晴らしさに気づきました。都会ではもう失われてしまったものがここにはあります。

電車が少ないたりバスがなかったり、遊ぶところが少なかったり、不満なところもたくさんあるけど、でも自分が生まれ育ったところなのだと言明するとき、面白いところがいっぱいあって、最新映画がすぐ観られて、

交通手段がたくさんあってなんて言うより、海があつて空気がきれいでたくさんの自然が足元にあるんだよと言えるほうがきつと幸せだと思います。

京都に住まなければ京都の良さを知ることにはなかつたし、由良を離れなければ由良の良さに気づくこともなかつたと思います。2つの街の良さを知ることができた私は幸せな経験ができたなあと思います。お花やお茶をならつたり、興味のあることをしたり穏やかな田舎生活を満喫しつつ、田舎生活の不便さの鬱憤を晴らしに京都にちよくちよく遊びに行っています。とにかく心に余裕がある今の生活がいなあと思うこの頃です。



## 人権標語

栗田中学校2年 尾崎亜沙

今でも誰かが  
あなたの優しさ  
まっています

## 北前船と中西熊吉さん

濱野路 大森 孝

『北前船』と私——私にとつ

て『北前船』をイメージする時、先ず思い浮かぶのは、同じ町内のさして遠くない砂丘の下の家に住んでいた『寅蔵』の爺さんとの出逢いである。彼、中西熊吉さんとはそれまでに顔は識っていたが、私は30才を出ていたので、農業をメインにしていた。彼は今は今の私の年齢73才を出ていられたかな。私はこの小柄な目立たぬ爺さんに、そんな華々しい血気さかんだった船乗りの半生があるとは露しらず……むしろこつこつと日常生活をこなしている実直な農の営みの姿に属性を見出していたので愕きだった。

一夏、京都大学の藤岡謙二郎教授が地震の研究がてら、御家族と拙宅で過ごされた時、『大森くん、君のどこ（由良）なら、北前船の廻船問屋があるだろうから、そっちの研究をやってみてはどうか?』と慫慂された。由良にそんな廻船問屋があつて、研究テーマに堪えるような資料などが果たしてあるのかな……と訝りながら、人づてにきいた「熊吉さん」の船乗りの噂をたよつてお宅へ伺つた。（この頃、教師を始めて八年目、スランプに陥つていたこともあつて期待していた。若し、充分な資料があつたら、望外の収穫になるかも）父よりも年長の彼に逢いに——。

私が来意をつけると、奥さんに指示して、手箱の中から大切に仕舞われていた和綴じの日記を三冊取り出してこられた。拝見した一冊は明治十四年のもので、十六年のものもあつた。私は寄港地に気がはやつたけれども、事細かに交易の物資とその数量が縷々記されていた。でも日記がせめて「幕末」であつてほしかったので、その意味で失望だった。熊吉さんは、福浦の港の名をよく口にされた。私は当時この能登の港がよくわからず、陸奥の深浦と混同していた。私が「酒田は?」と問えば、それに応じられたし、「小木は?」と問えば経験を語ってくれた。机上の知識でしかなかった、未熟の浅学の私にまともに意を尽くして止まなかつた。又、日誌にとりくまれたたゆみなさには頭が下がった。克明に手堅く記されていたのは、実直な人柄の反映であろう。彼の宝物とよべる航海日誌であつた。

けれども、熊吉さんの誠意あるメッセージをうけとめられなかった私は深く謝罪しなければならぬ。即ち、西廻り航路は明治二十年代まで続いていたら、又彼が語ってくれた由良から陸路をとつて大坂まで行つて、乗るべき船を待つていたということも事実だったのであつて、30才頃の私にはこうした「地についた海運の在様」が受けとめられなかつた不明さがあつた。深く後悔している。

今年（二〇〇一年）偶々、車で北陸へ旅して、金沢市よりの帰途、立寄つた加賀市橋立町イ乙1の1『北前船の里資料館』があつて（旧北前船の船主邸酒谷家）、求めた牧野隆信氏の著わす『北前船とそのふる里』によつて、中西熊吉さんが私に教えたかつたメッセージも漸く測り得られたのである。彼、熊吉さん、老後よく生きられて、天寿を完うされたことを附記して、想いを閉じたい。

# 由良に住んで四十年 (十)

## 由良川と私 I ハゼは生きていた

### 四方 寿朗

拙宅の北側に由良川への小さな排水路がある。小学校から東に向かつて府道の両側、浜野路およそ三十軒ばかりの家庭の下水の役を果たしている。昭和四十年頃まではコンクリートの溝から直接川へ注いでいたが、由良川の両側にテトラポッドを埋める工事が行われた。そのため、川辺に砂が堆積し、川沿いの道から約六十メートルの砂浜ができ、その中を自然の溝が川まで通じている。家庭の排水には、たくさん物質が含まれている。これが肥料となって舗装してない溝の両側に、今では草や木が生い茂っている。

今夏のように、雨が少なくて由良川の水量が減ると、川にも波が打ち寄せ、この水路は完全に閉塞する。今年八月初めの夕

方、水路の終わりは写真①のように、直径五メートル位の水溜まりになっていた。その水面をじつと見てみると、小さな波が立っている。アツ魚だ！しかも群れている。すぐ網を買ってきて、ちようど居合わせた二人の孫に手伝わせ、すくいにかかったが、網に入るのはゴミばかりで何も捕れない。そのうちに日が暮れた。

確証を得るため、是非捕りたい。いつかテレビの番組で観た方法を思い出した。ペットボトルの口の方、三分の一位のところをハサミで切断して、逆の方向に差し込む。空気抜き穴を千枚通しで沢山開けて捕獲器は完成した。中に重しの石と、餌に上等のシロメを入れた。水溜まりの隅にそっと沈めて翌朝を

待った。

写真②のハゼ体長六センチが一匹入った。しかし既に死んでいた。この汚水の中では、常に動き回っていないと、酸欠で命がもたないのだ。その翌日、更に大漁を目指してペットボトルを仕掛けたが、何故か一匹も捕れなかった。

長さ六十メートルの水路の上流には、波が由良川から持ち込んだ自動車のタイヤや、竹、木切れが泥に埋まっている。空カ、その他いろいろなゴミが溜まっている。

私は以前、この水路で亀やガマカエルの姿を見たことはあるがまさか、か弱い？ハゼの子が生きるとは思わなかった。恐らく波に乗って川から押し込まれたのだろう。或る日は、水路が開いていた時に迷い込んで、そのまま閉じ込められたのかも。今年の夏のように雨が少なく、この水路の水は殆ど家庭からの排水である。毒も

混じっている。石鹸、洗剤、それにハエ、蚊の駆除に自治会で散布を続けている防疫用殺虫剤――三共デメリン。我が家の水槽で飼っている金魚は、少し水を変えないと、すぐ死ぬ。ではこの汚水の中でハゼはどうして生きて来れたのか？

私は自然の持つ偉大な環境浄化能力に感服した。上流の浜野路の下水は大変な悪臭を放つそうだ。しかし私がよく散歩するこの水路の果ての水溜まりには、においが全く無い。多少は浜風で吹き飛ばされるかも知れないが、臭くない。流れ込んだ有機物は、水や泥の中の微生物が分解する。それを水辺の草が根から吸収する。水中のプランクトンが食べる。それが小さな水生動物の餌となる。この水路では、洗剤や殺虫剤に弱い虫やプランクトンは死に絶え、これらに強いものだけが子孫を残して生き続けているのだ。

考えてみると、汚水処理の原

理は、獅子にある宮津市の処理場と全く同じである。むしろこちらのの方が数段優れている。市の施設は終末の窒素や燐、アンモニアなどが海へ流れ出る。此処では生い茂る植物が根から吸収して、本当にきれいな水にして、海へ流している。而も草の葉緑素は太陽の光を得て、地球に貴重な酸素を出す。設備費ゼロ。管理は年に一度の自治会の溝掃除で足りている。

しかし、この水路が若し三面コンクリートで固めたものであったなら、汚物はそのままどんどん海へ出て行き、地球を汚す。私の子供の頃、田舎の家庭の台所の汚水は、ゼナ？と呼ぶタタミ一畳位の庭の水槽にいったん溜め、その上澄みを流したものだ。底には汚泥が沈み、微生物が懸命に水をきれいにしていた。今なら蚊の発生源となつて、とても辛抱出来ないだろうが、立派な汚水浄化施設。まさに生活の知恵と言うべき。勿論、この

水は貴重な野菜の肥やしになった。

先の公民館だよりで私は、上水道の濾過除菌に、微生物が如何に大きな働きをしているかを述べた。「同じ事ばかり言うな」とお叱りを受けるかも知れないが、美しい山や川が人間の手によつて、目先だけの利益や、見た目の良さを求めて、無残に破壊されて行くのを見るのが、どうしても我慢できない。コンクリートの川より、岸辺に植物の茂つた自然の川の方がどれ程美しいか。

最近小学校の運動場を芝生にして、子供を自然に親しませることを考えているとの話を聞いた。賛成だが、芝生の管理が大変だ。それよりもさらに進んで、私は運動場の草引きを一切中止して、草の生えるにまかせる。勿論芝生のように伸びた分は刈入れは要らない。肥料や水などやらなくても枯れることはない。

緑いっぱい草原で、思う存分子供を遊ばせることが出来る。素晴らしい名案だと思ふのは私だけか。

ハエや蚊、蛇もカエルも、地球上の生き物はみんな友達。何千万年もの長い間、お互いに助け合つて生きて来た。科学がい

くら進歩したと言っても、自然界の懐はまだまだ深い。人間は思い上りを捨てて、もっと謙虚につつましく生きて行かねばならない。異常気象や新しい疫病の流行など、人間に対する天誅はもう取り返しがつかないところまで来ている。



①



②

## 由良の地名 — その五 —

小谷 一郎

凡海郷おふしあまのこ由良村と呼ばれる土地が、凡海郷という地域内に存在しなければならぬと思つてみたのに、由良村の存在を示す史料はなかったということについて考えてみました。そこで、前回にもとり上げた「丹後国惣田数帳」(「宮津市史」史料編、巻一、七〇九〜七二三頁参照)を見ることにします。これには「宮津庄」という庄園が存在していたことを明らかにしています。しかし、其処には

百七町九百八拾歩 等持院  
拾三町四反二百四拾一步  
栗田村 御料所  
二町五反七拾四歩 漆原名なま

と、その内訳が記されています。この宮津庄は、現在の宮津(上

下の区分については明らかにされていませんので旧宮津町の町域の部分だけであるのかどうかも分りません。)ばかりでなく、栗田村が室町將軍の御料所であったこと、それが宮津庄の庄域内にあつたことがわかります。しかも「漆原名」—これは旧加佐郡岡田中村(現「舞鶴市」)字上、下漆原の地—は、全く郡境を越えています。こんな例は、島津庄の様に大隅国、薩摩国にまたがった大きなものをはじめ、郡境、郷境を越えた立庄もあつたもので、特別なものではなかつたのです。

等持院に寄進されている宮津庄に、その内のどの部分であつたのかは分りませんが、栗田村、漆原を除いた部分のうちの何れかであつただらうと思われるだけです。この等持院は、足利尊氏が暦応年中(一三三三〜四二)に創建して足利氏の菩提寺としたもので、それに宮津庄を寄進されるのは、それ以後のことでした。この宮津庄はそれ以前から足利氏とかかわりがあつたのです。それは、足利氏が、鎌倉時代からその地頭職をもつていたことが分っています。

これを示す史料というのは、倉持文書の中にある、「足利氏所領奉行交名」というものです。(「宮津市史」史料編、第一巻二六二〜三三頁参照)これには所領と記されていますが、鎌倉御家人である足利氏が庄園領主であるということはありえないので、それは、宮津庄の地頭職に任せられていたことであり、庄園に関するすべての権限をもつ所領であつたということではありません。しかし、武家の地頭の場合、その威にまかせて本所領家の権限を犯して所務を果さず、押妨を繰返して、あたかもそれを自らの所領の様に振舞つていたということも亦ありえたわけです。足利氏が天下を握つた室町幕府の時代、武家の棟梁たる征夷大將軍の威を笠に着て、庄園を押領して、ほしいままに領家の権限を侵して、気儘に、自家の菩提寺である等持院に寄進していたのです。

この宮津庄は、本来は「長講堂領」でした。これを示す史料としては、島田家文書に、建久二年(一一九二)「長講堂所領注文」があり、御簾、御座、疊、兵士役などを負担していたことが分ります。(「宮津市史」史料編巻一参照同書二三三〜三五頁)長講堂は、後白河法皇が寿永元暦年間(一一八三〜八四)に創建された持仏堂であり、その所領として寄進された庄園の一つであります。この宮津庄が何時の頃立庄されたのか、それを証明する史料はありませんし、その東西南北の境界が明示した史料も見ることばできません。

併し、この長講堂領は持明院統に供領され、その経済基盤の重大な部分を成していたのです。足利氏は自らが擁立した北朝の所領を武威にまかせて押領して、菩提寺に宮津庄を寄進していたのです。

丹後国惣田数帳は、一名、「丹後国諸庄郷保惣田数目録帳」であり、当時の丹後国におけるすべての地方組織が記載されていた史料です。此処に由良の地名の記載がなかったのです。本来、由良は凡海郷に属していたのですが、何時のことかは明らかにできませんが、宮津庄に組込まれたと考えざるを得ないのです。そして、田数帳作成の段階で、由良について記載すべき特別の事情もなかったのです。しかも田数の記載もすべて田数のみのもので、水田、畑、塩浜、その他の区分は全くされていません。従って、中世の頃の年貢が惣田数を「基準として賦課せられた」といつてまちがいない（岩波新

書版網野善彦著「日本中世の民衆像―平民と職人―」五三頁）

ということになるかと解されるのです。丹後有数の塩浜をもつていた由良の特徴を宮津庄の中で示しうる記載を、史料の中で見ることでもできなかったことは残念でした。

元弘三年（一一三三）五月、丹後に攻入った安芸の熊谷直清の軍は、浦家、浦富、木津、丹波、船木、善王寺、光安、大石の各地で北條の勢力と戦ったが、足利尊氏と関係のある宮津に攻込んでいないのです。（「熊谷家文書」大日本古文書本六一―二頁）このことから見ると、足利尊氏は、これよりさき、同年五月七日、丹波篠村で、反北條の旗を挙げたという情報が、既に伝わっていたということなのでしょうが。

（平成一四・九・一二）

## 旅は気儘に パート7

### 丹後由良ターミナルセンター

一時間に一本の電車で待たされています。都会じゃ五分も待たば電車がやって来る。けど、たまにのんびり待つのもいいか……。涼しいです。ハイ！感激した事ひとつ。街で私らを見てひとりの少年が「こんにちは」だって！すがすがしかったです。

八月二十日(木) 天気☁

東京から来まして、つかの間の休憩時間楽しんでおります。ちよー気持いい！ あらためて自然がイヤシ系だという事がわかったぞい！ でも残念なのが涼しすぎて海は寒かった。でも何度来ても由良はサイコーです！帰っても地下鉄くの世界だし……。住んでしまいたい。ああ海の幸くいてー。いきなりですが最近山椒太夫ゆかりの地として訪ねてみえる

方、電話での聞き合わせに、こんな地元にとつて良い名所はないのではと思う様になりました。ただその度に、四方先生をはじめ、歴史をさぐる会の方々に無理をおねがいする私です。

先日、ツアーの関係の方から、『由良に宿泊して、山椒太夫の歴史をさぐる目的できます。ガイドをしていただける方はありませんか』でした。すぐに、少し急なので、自分の方でなんとかしますと再度電話が入りました。その一日後、人数はさだかではありませんが、二、三十名はいられたと思いますが、宮津弁の様なガイドさんを先頭に、長い行列で幼稚園の前を通って東へ歩いて行かれました。

最近の由良から離れた所での盛り上がりにはびっくりします。



ツアーに組み込まれているので  
すね。今月（九月二十日すぎ）  
に、大学生団体さん四十名位が  
バスで廻るのにはどうすればい  
いですか？ でした。事前に物  
語の事で勉強されている様でし  
たのでバスの駐車についてご案  
内致しました。

少し前になりますが、バスガ  
イドさんが由良を通る時に安寿  
と厨子王の唄を歌って通りた  
いのですが、との電話でした。浜  
の路の森田さんが踊られた時に、  
そのテープがある様に聞きまし  
たので、無理を言っておかりし  
ました。すごいテープがある！  
と感動しましたね。さっそくダ  
ビングして送ると、今回そちら  
を通りますので唄わせていただ  
きますと手紙が来ました。二十  
六才ということで、小さい頃  
お母様から本を読んでもらった  
記憶があり気になっていました  
という事がつけ加えてありまし  
た。そのテープを私も何度も聞  
きました。物語、伝説なのに、

見ていない光景があったのに、  
私なりに浮かんできました。  
これまで以上に、このすこい、  
ゆかりの地が、きれいな海、山、  
川、宿、名産品と共に丹後由良  
の名所になってほしいと思っ  
ています。



## 編集後記

今夏ドライブ中にヒッチハイ  
クの少年を同乗させた。

聞くと高三で沖繩を目指して  
いるとのこと。家族のことと大  
学進学のこと等話が弾む。途中  
で無事を祈って別かれた。

ある日「〇〇ですが覚えてお  
られますか」。昨夜無事帰宅した  
のでお札の連絡があつた。「今ど  
きの若い者は」と嘆くことはな  
い、清々しい若い声を聞きなが  
らうれしくなった。

週五日制になって初めての夏  
休み、由良の子ども達はどんな  
夏休みだったのだろう。

今回も皆さんのご協力により  
「公民館だより」をお届けします。  
歩こう会や文化祭、こども料  
理教室等秋の行事が目白押しで  
すが皆さんのご支援をいただき  
成功させたいと願っています。

（飯澤）

